

## 「連勝！」



さらに自信をつけての3連勝！！ #149



自己最高位を更新2位 #138



連続表題を継続中 #45



こちらもまだまだ成長中 #7



2戦連続で少々流れが悪い #150

いま世間で「連勝」といえば、何と言っても将棋の藤井聡太四段ですよ。将棋界のレジェンドをも巻き込んでの大フィーバーは、今年上半期の最大のトピックス。そして記録したのが公式戦 29 連勝。同時にデビューからの連勝でもある。いやはや凄い中学生です。

凄いといえば佐藤琢磨選手の INDY500 優勝、日本人初の快挙！日頃モータースポーツを取り上げない、大メディアでも報道されてました。本当はもっと注目されてしかるべきニュースなんですけど。とにかくモータースポーツの一つの歴史が刻まれたことは間違いない、Congratulations！！

### 「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

今回のタイトルに該当する「連勝中」のチームは、K耐久東海シリーズ2017では2つ、そのうちのひとつがこの NN-B クラスの#149「K4EP」チーム。参加は昨年からのだが、フル参戦となった今年はここまで2連勝。このまま連勝を伸ばせるか。第3戦はいつもよりちょっとだけ長い3.5時間戦、全5チームが参加、#149の連勝を止めるとすればどこか。

#### ■予選

予選トップは#149「K4EP アルト 149R」1' 10.997、40キロのウエイト、さらに暑い中での午後の予選アタックとしては満点に近いタイムだ。2位は#45「インフィニティーアルト」1' 12.150、前戦に続いてまたまたタイムアップ、まだまだ伸びしろがあるぞ。

3位#138「ガレージタナカ PMU アルト」1' 12.252、こちらもグリーンとタイムアップ。初参加で初表彰台の勢いをつなげたい。

4位#150「SZK-150 アルト」は1' 14.899、とこちらもこれまたタイムアップ、さらに5位#7「SevanRacing アルト」1' 16.036、トップ以外はすべてのチームがタイムを上げて上位に挑んでいく。全車が HA23V のアルトバン。

#### ■序盤

#149「K4EP アルト 149R」、が早めのピットイン。これまでならば、ここからトップをキープというのが中盤への流れだが、今回は少々様子が違う。トップ争いの中心には#149 がいるのは間違いなのだが、他チームもひけを取っていない。

#138「ガレージタナカ PMU アルト」と#45「インフィニティーアルト」が競り合いながらトップ集団を形成。さらには#150「SZK-150 アルト」も食らいつく。

一言で言えば、混戦模様。#7「SevanRacing アルト」も大きなトラブルもなく走行を続ける、まさに皆がレベルアップしていると言った感じだ。

#### ■中盤

中盤でも入れ代わり立ち代わりトップが交代する、スリリングな展開。前戦で傷を追った#150「SZK-150 アルト」だが、初のトップ走行を記録すれば、#45「インフィニティーアルト」も初優勝に向けて加速する。

やはりそんななかでも、#149「K4EP アルト 149R」の動きには注意が必要。必ずボードの上位にはその名前を記している。これは自分たちのレースが出来ていることの証拠。本当に強くなったのだと思わせる。

しかも MAX の 40 キロのウエイトを積んでのこと。ターボクラスでも厳しいフルウエイト、タイヤにも負担がかかり始める中盤から終盤を乗り切れたら本物だ。

もう1台の注目は#138「ガレージタナカ PMU アルト」、こちらも自分たちのペースをキープしており、侮れない。

# Race Report



## ■終盤

いつもよりちょっとだけ長いバトル、ゴールまで残り1時間。いよいよ終盤になって上がってきたのは#149「K4EP アルト 149R」で 114Lap を走行。連勝は技術や速さはもちろん、自信という武器を身につけさせるのか。

2位には#138「ガレージタナカ PMU アルト」113Lap、優勝争いはこの2チームか。3位#150「SZK-150 アルト」111Lap、#45「インフィニティーアルト」も同じく111Lap、表彰台争いも僅差。

#7「SevanRacing アルト」も最後尾ながら 108Lap を消化しており、まだまだ侮れない。なにしろいつもよりちょっとだけ長いから。

## ■最終結果

3.5 時間戦を制したのは、最後までレースをコントロールした#149「K4EP アルト 149R」。いややお見事なハットトリック。走行 Lap はクラス唯一の 150Lap を記録。

2位には#138「ガレージタナカ PMU アルト」148Lap、追いつけたが2Lap のギャップがなかなか埋められなかった。それでも前回より一つ順位を挙げての2位、次の目標はもう見えているぞ。

3位#45「インフィニティーアルト」、147Lap を走行。2位→2位ときて、順位は一つ下げたものの連続表彰台をキープ中。こちらも目標は自分たちではわかっているはず。

4位は健闘の#7「SevanRacing アルト」、順位こそ前回と同じ4位だが、その中身はぐっと濃い。

5位#150「SZK-150 アルト」表彰台も見えていた最終盤にターン1でコースアウトを喫し、順位を下げることに。それでもしっかりと完走。

## ■総評

第2戦の総評で自信をつけた#149「K4EP アルト 149R」と書いたが、今回はそれにも増して、自信たっぷりの走りを見せつけた。それでいて優勝スピーチでは手ほどきしてくれたレース仲間への感謝を口にするなど、気持ちのよいチームだ、今後の活躍に期待したい。

2位以下も、そのギャップがぐっと詰まった、中身の濃いレース。それぞれがレベルアップし、一つ上に上がってゆく、ビギナークラスらしい爽やかな 3.5 時間戦だった。

次回はシーズンの山場 4 時間戦、いつもより結構長いはず。まだまだ暑い 9 月の戦い、くれぐれも準備を怠りなくお願いします。



どこでも僅差のバトルが繰り広げる



真夏の戦いも制し実りの秋へと一直線



ビギナークラス



復活のV! #10



2位でランキングトップは堅持 #5



3位表彰台! #55



マルチニラインが帰ってきた #6



## 「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

お兄さんたちの「エキスパート」クラスは実力を持ったチームが集まるだけに接戦。開幕戦では、#5「Baden PROJECT K アルト」が念願の初優勝。

#10「FAST OUT 最速アルト V」は無念のノーポイント、この悪い夢を振り払いたい。第3戦の顔ぶれはこれまでと同じ4チーム、現在のランキングは1位から4位までは15P差だが、そのポイント以上に実力伯仲だ。

### ■予選

予選トップはなんと今回も#55「STC 中部ハネダビート」1'09.871。予選では負け無し。第2戦では2位に入り実力を証明、今回狙うは初優勝。気になるのは5回の義務ピットか。

2位は#5「Baden PROJECT K アルト」1'10.089、前戦の優勝でランキングも首位に立った、この調子で走りたい。

3位は#10「FAST OUT 最速アルト V」1'10.960、今年の本命も思わぬトラブルに沈んだ第2戦、取り返すには勝つしか無い。

4位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」は1'13.508。現在連続3位でもっと上を目指したい、マルチニラインがそれを後押ししてくれるか。

### ■序盤

前回の忘れ物を取り返そうとばかりに、#10「FAST OUT 最速アルト V」がトップに立つ。#5「Baden PROJECT K アルト」と#6「ロッキーレーシング DXL アルト」がそれを追いかける。ちなみに第2戦の勝者#5「Baden PROJECT K アルト」は20キロのウエイト。

4位は#55「STC 中部ハネダビート」、まず最初のピットイン。旧規格車は5回ピットだ。

### ■中盤

各車のピットインが一段落したと思われる中盤で、トップには相変わらず#10「FAST OUT 最速アルト V」。首位がために入りたい局面。2位には#55「STC 中部ハネダビート」、ピットハンデはまだ残るようだが1'09.210と予選をも上回るタイムを記録して追い上げる。他のチームにとってはこのスピードはやはり注意すべき存在。

### ■終盤

さあ終盤の残り1時間、#10「FAST OUT 最速アルト V」117Lap 全体でもトップ10に入る快走。それ追う#5「Baden PROJECT K アルト」116Lap、この時点での1Lapは大きいのか小さいのか。20キロとは言えウエイトの影響も、タイヤの摩耗等にじわじわと効いてくる頃、どこかで多少のリスクを負ってでもプッシュする必要がある。

3位#55「STC 中部ハネダビート」114Lap、表彰台圏内だがもうひと踏ん張りしたい。4位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」111Lap、逆にこちらは表彰台に登るためには3Lapだ。いつもよりちょっとだけ長いバトルはいよいよクライマックスへ。

# Race Report



## ■最終結果

最終的に2台に絞られた優勝争いは、#10「FAST OUT 最速アルトV」に軍配。トラブルに沈んだ前回の悪夢を払拭、復活の勝利だ。

2位は1Lap届かなかった#5「Baden PROJECT K アルト」、連勝は逃したが、ランキングトップは堅持。

3位は#55「STC 中部ハネダビート」、表彰台を守った。

4位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、2Lap届かず表彰台は逃した。

## ■総評

#10「FAST OUT 最速アルトV」が復活のVを遂げたことで、ポイントランキングが混戦に。トップは#5「Baden PROJECT K アルト」だが、4位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」までは16P差。次はポイント増量の4時間戦、いつもより結構長い戦いだ。



デルタのマルティニにチャレンジしてほしい



PPAP ではないですよ〜(ˆoˆ)



優勝&オイルも Get〜



エキスパートクラス





帰ってきた… #25



惜しい、連勝はならず #66



トップとのギャップは詰まっているぞ #225



## NCクラス（軽NAのクローズドクラス）

開幕戦では、#25「アカミネコマル 2トゥデイ」が勝利、続く第2戦では完勝で#66「VISCANTIトゥデイ」が今季初勝利、がっぷり四つとなったポイント争い。真夏の3.5時間をトップで走り抜けるのはどのチームか、出場は3チームながら濃いバトルが幕を開ける。

### ■予選

予選トップは、今回も#66「VISCANTIトゥデイ」1' 08.629。開幕から3戦連続のトップタイム。ウエイトを20キロ積んでのタイムだ。ここは一つ連勝といきたいところ。2番手は#25「アカミネコマル 2トゥデイ」1' 11.342、予選は不発か。しかし決勝での強さがこのチームの真骨頂。予選3位#225「ぐっちっちプリントアートゥデイ」1' 11.499、こちらもタイムは伸び悩んだか。クラス唯一のビートとして孤軍奮闘でトップ2の牙城に迫りたい。

### ■序盤

やはりと言うか、上位2チームがバトルを展開。序盤#66「VISCANTIトゥデイ」が先行すれば、ピタリ#25「アカミネコマル 2トゥデイ」がマーク。これまでの2戦とほぼ同じ構図がまたも繰り返される、本当に実力伯仲だ。

3番手#225「ぐっちっちプリントアートゥデイ」、第2戦できっちり走りきれたことで、自信とマシンへの信頼も生まれ、序盤から予選を上回る1分09秒台を記録、速さも見せてきた。

### ■中盤

中盤でトップに立ったのは#25「アカミネコマル 2トゥデイ」、第2戦ではいつもの展開に持ち込めず敗れたが、今回は中盤でトップに立つ。いつもよりちょっとだけ長い3.5時間は何があるかわからない、早めの仕掛けと言ったところか。

2位下がった#66「VISCANTIトゥデイ」、こちらは終盤の逆転にかけるか。3番手#225「ぐっちっちプリントアートゥデイ」時折速さは見せるが、周回数としては少し伸び悩んでいるが…



暑いけどレースはアツいよ！！  
ドッグファイトだよ！

そしてドッグもホットで美味しいよ！！

今回の出店は碧南のホットドッグ専門店  
CLOUD9(クラウドナイン)さん



# Race Report

## ■終盤

終盤では#25「アカミネコマル 2 トウディ」が少しずつギャップを広げ始める。残り1時間で119Lap、2位の#66「VISCANTI トウディ」は116Lap、少しギャップが開く。3位#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」は114Lap、中盤心配されたがまずまず盛り返してきた。

昨年、そして今年のル・マンを見てもわかるようにいつ何時、どんな不運が襲うかわからない。その一方で序盤のトラブルから栄冠ということもある。“レースは違えどレースは同じ”不運なことは考えたくないが、どのチームも最後まで走ってほしい。

## ■最終結果

レースの最終盤で他クラスのコースアウト、さらにはぱらついた雨粒と、不安材料はあったものの無事にチェッカー。優勝は156Lapを走った#25「アカミネコマル 2 トウディ」。今度は自分たちの形に持ち込んでの復活の勝利。

2位は153Lapの#66「VISCANTI トウディ」、連勝とはいかなかった。

3位#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」は151Lap、トップとの差は第2戦よりつまってきており戦闘力も上がってきているようだ。

## ■総評

タイトルの通りの連勝とはいかなかったが、トップを争った2チームは本当にレベルが高く3チームがそれぞれのレースを見せてくれた。さあ次回は秋の4時間祭りだ、どんなバトルが見られるのか。



NC クラス



予選は開幕から3戦連続クラストップ！

今度は勝ちました！！

じゃんけん負けられない！！





今季初優勝を総合 V で決めた！！ #330



まだまだランキングトップ #93



ZOOM-ZOOM 色で初表彰台 #69



連勝ならず 4 位でポイントは 3 位 #28

## TCクラス（軽過給機のクローズド）

開幕戦では#93「藤枝マリンダイビングアルト」がまずは幸先の良い勝利を決め、続く第2戦では#28「KHK VIVIO」が悲願の初優勝と、それぞれの実力者がひとつづつ取り合って迎える第3戦、2勝目をどちらが取るのか、はたまた第3の勝者が現れるのか、いつもよりちょっとだけ長い3.5時間の戦いだ。

### ■予選

今回の予選トップは#330「DIXCEL コンパーノミラ」1'06.283、いました、現在連続でチャンピオンを獲得している、クラス最強チームが。ハンデ変更の影響もあってか今シーズンは2位、3位とここまで優勝はない。本来は決勝での強みを発揮するチームだが、今回は予選からトップを取ってきた、この積極姿勢を結果に繋がられるか。

2位は#24「そのまんまのヴィヴィオ」1'07.514、前回急いで仕上げたマシンは序盤こそ不調で心配されたが、最下位ながら無事完走したことで一安心。今回は万全か、まずは予選好位置からスタート。

3位#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'08.090、わずかに3ポイント差ながらランキングトップ、2勝目はタイトル奪還に大きく近づく。

4位#69「モモヤマレーシングアルト」1'09.114。これまでブツラクだったカラーが今回鮮やかなレッドに。聞けばCX-5にも使われている赤とのこと、ソウルに響く走りでも上位を狙いたい。

5位#28「KHK VIVIO」1'09.500、前回優勝のチームはこの位置、ウエイトの影響もあるかもしれないが、予選は思ったようには行かなかったようだ。

6位#112「白須賀会カプチーノ」1'09.723、今回はカプは1台のみ。以上の6チーム、全車グリッドにつく。

### ■序盤

予選トップの#330「DIXCEL コンパーノミラ」はまずはピットイン、これにより3位に。代わって首位に立つのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、2位は#112「白須賀会カプチーノ」。

4位は#24「そのまんまのヴィヴィオ」、今回は最初のステイントから走り出せた。

5位#69「モモヤマレーシングアルト」、6位#28「KHK VIVIO」、このあたりもピットインを敢行したようだ。

### ■中盤

中盤は予想通り伯仲のトップ争いが展開される。#93「藤枝マリンダイビングアルト」を先頭に#69「モモヤマレーシングアルト」、#28「KHK VIVIO」という順。

その下n4位に#330「DIXCEL コンパーノミラ」、ここでも早めのピットイン戦略か。5位#112「白須賀会カプチーノ」と続く。

#24「そのまんまヴィヴィオ」は序盤は問題なさそうに見えたが、中盤では伸び悩み、大きなトラブルでは無いと良いのだが・・・まだまだ先は長い。いつもよりちょっとだけ長い3.5時間戦。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■終盤

ゴールまであと1時間、終盤のトップ争いは、#28「KHK VIVIO」121Lap、同じく#330「DIXCEL コンパーノミラ」も121Lap、3位#93「藤枝マリンダイビングアルト」120Lap。#28「KHK VIVIO」はまだピットインを残しているようで、事実上のトップ争いは#330「DIXCEL コンパーノミラ」と#93「藤枝マリンダイビングアルト」か。2台のピット戦略が同じだとすると、1Lapのギャップをどうするかが勝利への鍵。今日の最速Lapでは#330「DIXCEL コンパーノミラ」が1'06.192、#93「藤枝マリンダイビングアルト」は1'06.194、ほぼ互角。#330がミスをしないうり、#93はあと一步のプッシュが必要だ。

表彰台争いも気になる。現在4位の#69「モモヤマレーシングアルト」は118Lap、こちらは#28「KHK VIVIO」との差がどうなるか。

5位#24「そのまんまのヴィヴィオ」110Lap、大きなトラブルはなく、周回数も増やしてきた表彰台までは厳しかもしれないが、規定周回数はクリアできそうだ。

#112「白須賀会カプチーノ」は中盤から終盤にかけてクラッチトラブルが発生し、マシンをピットに入れての修復。しかしながら、マシンは治らず67Lapのところでリタイヤとなってしまった。

## ■最終結果

最後まで追いかける#93「藤枝マリンダイビングアルト」、1分05秒台の最速Lapを更新しながら追い上げる。他クラスのコースアウトが原因のSC導入などあって、差は詰まったが、1Lapが埋められず優勝は#330「DIXCEL コンパーノミラ」のもの。嬉しい今シーズン初勝利を総合Vのご褒美付きで手にした。

3位表彰台も僅差、こちらは#69「モモヤマレーシングアルト」が同一周回の争いを制し初めてのポディウムへ。4位は#28「KHK VIVIO」でその差3秒5。

#24「そのまんまのヴィヴィオ」は終盤にピットロード速度違反のペナルティがあったが、規定周回数をクリアし5位完走。



今回の完走には手応えがあったか #24



序盤好調だったが #112



このあとクラッチトラブルで戦線離脱



他クラスのマシンをいなすのも耐久では重要



TC クラス



## ■総評

このクラスは連勝するチームが現れず、3戦を終えてすべて勝者が違うという結果に。

シリーズ争いは混沌、#93「藤枝マリンダイビングアルト」、がわずか 3P の差でトップというのは変わらず、2位にはは#330「DIXCEL コンパノミラ」、ここでもじわじわポジションを上げる作戦か。#28「KHK VIVIO」もトップまでは 9P、2 勝目を上げるチームが大きく流れを引き寄せるはずだ。

次はいつもより結構長い 4 時間の戦いが待っている。

Pos	No.	Team	Time	Diff	Start	Start
1	220	DIXCEL コンパノミラ	1:02:10.0	0.0	11:00	1:02:10.0
2	221	藤枝マリンダイビングアルト	1:02:13.0	3.0	11:00	1:02:13.0
3	222	アサヒレーシング	1:02:14.0	4.0	11:00	1:02:14.0
4	223	アサヒレーシング	1:02:15.0	5.0	11:00	1:02:15.0
5	224	アサヒレーシング	1:02:16.0	6.0	11:00	1:02:16.0
6	225	アサヒレーシング	1:02:17.0	7.0	11:00	1:02:17.0
7	226	アサヒレーシング	1:02:18.0	8.0	11:00	1:02:18.0
8	227	アサヒレーシング	1:02:19.0	9.0	11:00	1:02:19.0
9	228	アサヒレーシング	1:02:20.0	10.0	11:00	1:02:20.0
10	229	アサヒレーシング	1:02:21.0	11.0	11:00	1:02:21.0
11	230	アサヒレーシング	1:02:22.0	12.0	11:00	1:02:22.0
12	231	アサヒレーシング	1:02:23.0	13.0	11:00	1:02:23.0
13	232	アサヒレーシング	1:02:24.0	14.0	11:00	1:02:24.0
14	233	アサヒレーシング	1:02:25.0	15.0	11:00	1:02:25.0
15	234	アサヒレーシング	1:02:26.0	16.0	11:00	1:02:26.0
16	235	アサヒレーシング	1:02:27.0	17.0	11:00	1:02:27.0
17	236	アサヒレーシング	1:02:28.0	18.0	11:00	1:02:28.0
18	237	アサヒレーシング	1:02:29.0	19.0	11:00	1:02:29.0
19	238	アサヒレーシング	1:02:30.0	20.0	11:00	1:02:30.0
20	239	アサヒレーシング	1:02:31.0	21.0	11:00	1:02:31.0
21	240	アサヒレーシング	1:02:32.0	22.0	11:00	1:02:32.0
22	241	アサヒレーシング	1:02:33.0	23.0	11:00	1:02:33.0
23	242	アサヒレーシング	1:02:34.0	24.0	11:00	1:02:34.0
24	243	アサヒレーシング	1:02:35.0	25.0	11:00	1:02:35.0
25	244	アサヒレーシング	1:02:36.0	26.0	11:00	1:02:36.0
26	245	アサヒレーシング	1:02:37.0	27.0	11:00	1:02:37.0
27	246	アサヒレーシング	1:02:38.0	28.0	11:00	1:02:38.0
28	247	アサヒレーシング	1:02:39.0	29.0	11:00	1:02:39.0
29	248	アサヒレーシング	1:02:40.0	30.0	11:00	1:02:40.0
30	249	アサヒレーシング	1:02:41.0	31.0	11:00	1:02:41.0
31	250	アサヒレーシング	1:02:42.0	32.0	11:00	1:02:42.0
32	251	アサヒレーシング	1:02:43.0	33.0	11:00	1:02:43.0
33	252	アサヒレーシング	1:02:44.0	34.0	11:00	1:02:44.0
34	253	アサヒレーシング	1:02:45.0	35.0	11:00	1:02:45.0
35	254	アサヒレーシング	1:02:46.0	36.0	11:00	1:02:46.0
36	255	アサヒレーシング	1:02:47.0	37.0	11:00	1:02:47.0
37	256	アサヒレーシング	1:02:48.0	38.0	11:00	1:02:48.0
38	257	アサヒレーシング	1:02:49.0	39.0	11:00	1:02:49.0
39	258	アサヒレーシング	1:02:50.0	40.0	11:00	1:02:50.0
40	259	アサヒレーシング	1:02:51.0	41.0	11:00	1:02:51.0
41	260	アサヒレーシング	1:02:52.0	42.0	11:00	1:02:52.0
42	261	アサヒレーシング	1:02:53.0	43.0	11:00	1:02:53.0
43	262	アサヒレーシング	1:02:54.0	44.0	11:00	1:02:54.0
44	263	アサヒレーシング	1:02:55.0	45.0	11:00	1:02:55.0
45	264	アサヒレーシング	1:02:56.0	46.0	11:00	1:02:56.0
46	265	アサヒレーシング	1:02:57.0	47.0	11:00	1:02:57.0
47	266	アサヒレーシング	1:02:58.0	48.0	11:00	1:02:58.0
48	267	アサヒレーシング	1:02:59.0	49.0	11:00	1:02:59.0
49	268	アサヒレーシング	1:03:00.0	50.0	11:00	1:03:00.0
50	269	アサヒレーシング	1:03:01.0	51.0	11:00	1:03:01.0
51	270	アサヒレーシング	1:03:02.0	52.0	11:00	1:03:02.0
52	271	アサヒレーシング	1:03:03.0	53.0	11:00	1:03:03.0
53	272	アサヒレーシング	1:03:04.0	54.0	11:00	1:03:04.0
54	273	アサヒレーシング	1:03:05.0	55.0	11:00	1:03:05.0
55	274	アサヒレーシング	1:03:06.0	56.0	11:00	1:03:06.0
56	275	アサヒレーシング	1:03:07.0	57.0	11:00	1:03:07.0
57	276	アサヒレーシング	1:03:08.0	58.0	11:00	1:03:08.0
58	277	アサヒレーシング	1:03:09.0	59.0	11:00	1:03:09.0
59	278	アサヒレーシング	1:03:10.0	60.0	11:00	1:03:10.0
60	279	アサヒレーシング	1:03:11.0	61.0	11:00	1:03:11.0
61	280	アサヒレーシング	1:03:12.0	62.0	11:00	1:03:12.0
62	281	アサヒレーシング	1:03:13.0	63.0	11:00	1:03:13.0
63	282	アサヒレーシング	1:03:14.0	64.0	11:00	1:03:14.0
64	283	アサヒレーシング	1:03:15.0	65.0	11:00	1:03:15.0
65	284	アサヒレーシング	1:03:16.0	66.0	11:00	1:03:16.0
66	285	アサヒレーシング	1:03:17.0	67.0	11:00	1:03:17.0
67	286	アサヒレーシング	1:03:18.0	68.0	11:00	1:03:18.0
68	287	アサヒレーシング	1:03:19.0	69.0	11:00	1:03:19.0
69	288	アサヒレーシング	1:03:20.0	70.0	11:00	1:03:20.0
70	289	アサヒレーシング	1:03:21.0	71.0	11:00	1:03:21.0
71	290	アサヒレーシング	1:03:22.0	72.0	11:00	1:03:22.0
72	291	アサヒレーシング	1:03:23.0	73.0	11:00	1:03:23.0
73	292	アサヒレーシング	1:03:24.0	74.0	11:00	1:03:24.0
74	293	アサヒレーシング	1:03:25.0	75.0	11:00	1:03:25.0
75	294	アサヒレーシング	1:03:26.0	76.0	11:00	1:03:26.0
76	295	アサヒレーシング	1:03:27.0	77.0	11:00	1:03:27.0
77	296	アサヒレーシング	1:03:28.0	78.0	11:00	1:03:28.0
78	297	アサヒレーシング	1:03:29.0	79.0	11:00	1:03:29.0
79	298	アサヒレーシング	1:03:30.0	80.0	11:00	1:03:30.0
80	299	アサヒレーシング	1:03:31.0	81.0	11:00	1:03:31.0
81	300	アサヒレーシング	1:03:32.0	82.0	11:00	1:03:32.0
82	301	アサヒレーシング	1:03:33.0	83.0	11:00	1:03:33.0
83	302	アサヒレーシング	1:03:34.0	84.0	11:00	1:03:34.0
84	303	アサヒレーシング	1:03:35.0	85.0	11:00	1:03:35.0
85	304	アサヒレーシング	1:03:36.0	86.0	11:00	1:03:36.0
86	305	アサヒレーシング	1:03:37.0	87.0	11:00	1:03:37.0
87	306	アサヒレーシング	1:03:38.0	88.0	11:00	1:03:38.0
88	307	アサヒレーシング	1:03:39.0	89.0	11:00	1:03:39.0
89	308	アサヒレーシング	1:03:40.0	90.0	11:00	1:03:40.0
90	309	アサヒレーシング	1:03:41.0	91.0	11:00	1:03:41.0
91	310	アサヒレーシング	1:03:42.0	92.0	11:00	1:03:42.0
92	311	アサヒレーシング	1:03:43.0	93.0	11:00	1:03:43.0
93	312	アサヒレーシング	1:03:44.0	94.0	11:00	1:03:44.0
94	313	アサヒレーシング	1:03:45.0	95.0	11:00	1:03:45.0
95	314	アサヒレーシング	1:03:46.0	96.0	11:00	1:03:46.0
96	315	アサヒレーシング	1:03:47.0	97.0	11:00	1:03:47.0
97	316	アサヒレーシング	1:03:48.0	98.0	11:00	1:03:48.0
98	317	アサヒレーシング	1:03:49.0	99.0	11:00	1:03:49.0
99	318	アサヒレーシング	1:03:50.0	100.0	11:00	1:03:50.0



今季初勝利、疲れましたか？ 勝てば気にならないものです！



#330さんへ今回はお見事でした



王者を抑えて悲願の初優勝！ #91



”連勝”とはいかず今回は 2 位 #39



しぶとく走ってポイントゲット #23



決勝は残念ながら DNS #448

## OP クラス (軽NAおよびターボのオープンクラス)

ここまで連勝中のチームがあるのはこのクラス、NO 時代からクラス王者に君臨する #38「デモリッションエグゼ」が 2 連勝中、この連勝を伸ばせるか。第2戦と同じ顔ぶれの4台での戦い。

### ■予選

予選トップは、ターボ車の #23「Team Jatsun アルト」が 1' 04.393 を叩き出し異次元へ。2 位以下を 2 秒近く引き離すさすがの速さ。2 位 NA に 40 キロのフルウエイトは厳しいか #38「デモリッションエグゼトウディ」が 1' 07.227、予選で言えばウエイトの影響はコンマ 5 秒ほどだが、終盤にはどうなるか。

3 位は #91「BRP★アルトバンターボ」1' 07.232、今シーズンからターボをプラスして臨み前回は 3 位と調子は上向き。

4 位 #448「spearheadプレオ」が 1' 10.422、2 位を 2 回連続記録している、自動車大学 OB チーム。壁を乗り越えるために選んだのはターボ化。もともとミラの OEM 車であるプレオにダイハツターボエンジンを搭載、事務局に確認した上で OK。プライベートターボながらどこまでやれるか。

### ■序盤

#23「Team Jatsun アルト」、前回しぶとく完走してポイントを持ち帰ったが、今回は勝利を狙う。またしても早々と序盤から 04 秒台を記録してトップをキープ。

ところが、マフラーのリヤピースが脱落するトラブルで修復。大事には至らなかったようだがイヤな雰囲気は漂う。

代わってトップを行くのは #91「BRP★アルトバンターボ」、前回の 2 位争いは史上まれに見る接戦、コンマ 769 差で 3 位となった、今回狙うはもちろん初優勝。

2 位は早々にピットを済ませた #38「デモリッションエグゼトウディ」。

ターボエンジンを積んで臨んだ #448「spearheadプレオ」、予選はタイム記録できたものの肝心のエンジンが不調となり、スタートグリッドにつけず DNS となってしまった、まことに残念。

### ■中盤

初優勝に向けてトップを走っていた #91「BRP★アルトバンターボ」だが、ピットロード速度違反でペナルティストップ、トップを #38「デモリッションエグゼトウディ」に譲る。そして今回またしても #23「Team Jatsun アルト」に試練が襲う。マフラー脱落は比較的軽傷だったが、その傷も癒えぬうちのスロー走行。今度はフロントハブの破損だ。スペアパーツは持ってきており修復は可能とのことだが、大きく順位は下げてしまう。なかなか流れをつかめない今シーズン。

### ■終盤

中盤でトップに立った #38「デモリッションエグゼトウディ」はここから加速、と行きたいところだが今回は少々様子が違う #91「BRP★アルトバンターボ」が追いついてくる。#38「デモリッションエグゼトウディ」はドライバー交代のおりに、車外に倒れ込むような場面が見られ、少々心配だ。その後ルーティンピットは無事こなしているようなのでまずは安心と言ったところ。熱中症本当に気をつけて下さいね。

今回こ難しいレースとなってしまった #23「Team Jatsun アルト」だが、少しでも挽回しようとアクセルを踏む。あと 1 時間、完走を目指せるペースには持ってきている。

# Race Report



## ■最終結果

いろんなことがあった、いつもよりちょっとだけ長いレースは”いつものように”、#38「デモリッションエグゼトウディ」がチェッカーとはいかなかった。

「終盤でガス欠の症状が出てしまいペースを上げられなかった」とチーム関係者。「さらにタイヤもタレてしまったのも…」と悔しそうだった。やはりウエイトが効いていたのか。

30秒差で終盤逆転を果たし、悲願の初優勝は#91「BRP★アルトバンターボ」！「マシンの細かいところを変えてきたので新たなシェイクダウンみたいなもの」とこちらも関係者が語る。何を変えたかの質問には「猛練習(笑)」とリーダーが笑顔で語り、チーム全員で嬉しさを分かち合っていた。

3位は余裕を持って規定周回数をクリアした#23「Team Jatsun アルト」、前回に続き苦しいレースをしぶとく完走し、今回もポイントを持ち帰ることに成功。

## ■総評

見事な初優勝で#91「BRP★アルトバンターボ」はランキング2位に浮上。連勝は止まったものの、ランキングトップに行く王者#38「デモリッションエグゼトウディ」とは23Pの差があるが、挑戦権は確保したと言える。次戦のいつもより結構長い4時間戦はどのチームにとっても大事な戦いとなるに違いない。

気になるのは#23「Team Jatsun アルト」の存在、トラブルさえなければブッチギリの速さというのは、今年も健在。シーズンの動向を左右するチームだ。

そして今回はとても残念な結果に終わってしまった#448「spearheadブレオ」。自動車部OBチームということで、楽しみながら自分たちのできる範囲で最善を尽くすという、グラスルーツモータースポーツの本質を見せてくれるチームの次なる戦いに大いに期待したい。



ドライバーは事なきをえました



テキパキと補修作業をこなしていく



OP クラス



オイルは連勝！ V2



みんなで勝ち取った勝利です